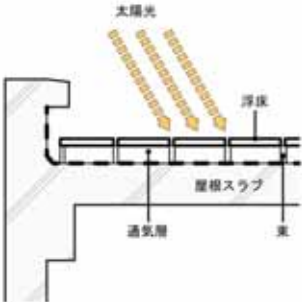
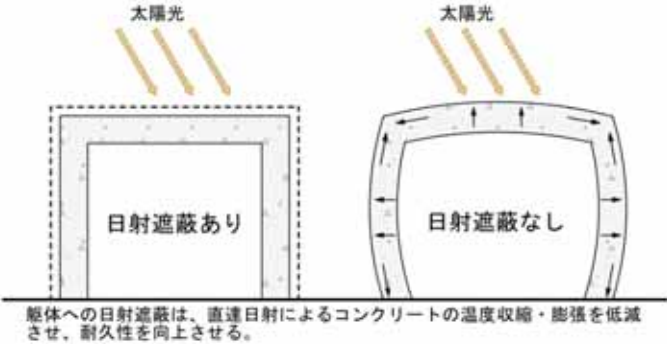


最終更新日 H24.10.24
改修技術 No. 12201101

性能分野	環境・省エネルギー性能		
大分類	日射遮蔽性の向上		
中分類	躯体の日射遮蔽性の向上 / 屋根の日射遮蔽性の向上		
技術の名称	屋上日射遮蔽浮床工法		
改修技術の概要	<p>【改修工事の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日射によるコンクリートへの蓄熱を防ぐことで、住戸における夏季の躯体からの輻射熱（温熱）（日中および夜間）を低減する。 ・躯体蓄熱の低減によるヒートアイランド現象の緩和にも効果がある。 ・遮蔽材や植物で日射を遮る工法や太陽光に含まれる近赤外領域の光を反射する塗料を塗布する工法がある。 <p>【各工法の特徴】</p> <p>屋上日射遮蔽浮床工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋上防水層または保護層の上に浮床を作り日射を遮り、通気層が屋上コンクリートスラブへの直接の蓄熱を低減する。 ・通気層を確保するためにコンクリートブロックに足を付けたものや束とコンクリート板のシステム部材などがある。 ・夏季、屋上スラブの蓄熱を防ぎ、最上階住戸の天井からの輻射熱（温熱）低減する。 ・また、屋上スラブの熱応力低減による躯体保護、露出防水層の紫外線からの保護など、耐久性の向上にも効果がある。 ・床部材に保水能力を持たせて打ち水効果を狙った製品、酸化チタンを用いて汚れを付きにくくし、反射率を高めた製品などがある。 ・屋上に部材を並べて固定するだけの簡便な工事となるので工期も短く、騒音等も少ない。 ・積載荷重は、増加するため確認が必要。 		
	 		
共同住宅のタイプごとの技術の適用	技術の種類	調査・診断技術 改修技術（ 劣化を補修する技術 性能を向上させる技術）	
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55 年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	現在の仕様より省エネ性能がかなり劣るため、使われる可能性が相当ある
		S55 年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	現在の仕様より省エネ性能がかなり劣るため、使われる可能性が相当ある
		S56～H2 年供給(総プロB)	現在の仕様より省エネ性能が劣るため、使われる可能性がある
		H3～12 年供給(総プロC)	現在の仕様より省エネ性能が劣るため、使われる可能性がある
		H13 年以降供給(総プロD)	現在の仕様より省エネ性能が劣るため、使われる可能性がある
(補足) 荷重の増加を許容できる場合			

常にセットで利用される技術		
技術が適用される建物の部位		共用部分 (躯体・外壁 屋根 建具 設備・配管等 その他共用部) 専有部分 (設備・配管 その他専用部分) 設置・運営等で建築基準法以外に注意すべき主な法令がある設備 () 注意すべき主な法令 ()
団地で適用した場合のメリット		住棟まわりの土地が利用できること(仮設以外)() まとまった土地が利用できること(仮設以外)() 住宅の数が多く密度が高い() 特定の設備があること()
足場の設置が必要		必要 不要 ()
工事による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	該当 非該当 ()
	一時的な影響が発生	断水などライフラインが一時的に利用不可 振動 騒音 粉塵 臭気 その他専有部分又は専用使用部分に対する制限 ()
	工事後に続く影響が発生	専有部分又は専用使用部分の使用に対する制限() 日照・採光等への影響(屋上コンクリートスラブへの日射を遮る)
当該技術が利用される工事		計画修繕工事(劣化の補修 性能の向上) 耐震改修工事(耐震性の向上 他の性能の向上)
技術的限界		・屋根の荷重が増加するため、適用できない場合がある。
参考資料	技術情報	
	価格情報	・「建築コスト情報」(一財)建設物価調査会